

(別添)

12月15日 近大奈良キャンパス内里山にある絶滅危惧種ニッポンバラタナゴの新生息池の水抜き、採り上げ作業を実施します

近畿大学農学部（奈良市中町、学部長：宇都宮直樹）では、環境管理学科水圏生態学研究室（北川忠生准教授）が、奈良県自然環境課との協力の下、絶滅の危機に瀕しているコイ科魚類のニッポンバラタナゴの保護活動に取り組んでいます。

奈良県希少野生動植物保護計画に基づいた保護活動の一環として、平成22年度より、ニッポンバラタナゴの生息池を奈良キャンパス内にある里山のため池に創出する試みに取り組んでいます。3年目にあたる本年12月15日（土）に、池の水を抜いた池からのニッポンバラタナゴ採りあげ作業を行います。

ニッポンバラタナゴは、近年まで九州中北部と香川県、大阪府でのみで生息が確認されていましたが、2005年に同研究室が新たに奈良公園内の池で生息しているところを発見。以来、近畿大学農学部内で繁殖させ、キャンパス内で系統保存を続けています。もともとの生息池の環境が悪化し、絶滅の危機に瀕しており、危険分散のためにも新たな生息池を必要としています。

近大内のため池では、2年目にあたる昨年度からタナゴの繁殖が確認されはじめています。本年度の夏期には、沢山の稚魚が池の表層に群れをなして泳いでいる姿を確認しています。今回は、池の水を抜き、個体を採りあげて個体数の調査を行います。同時に、底にたまったヘドロ（有機物）を、バケツリレーで掻き出します。ヘドロは、翌年、池に隣接する棚田の肥料として活用します。この里山では、このような伝統的な里山の池の管理の実習を通して、ヒトの活動と貴重な野生動植物が共存できる空間作りを目指しています。

奈良キャンパス内の

ニッポンバラタナゴの新生息池

（希少魚ビオトープ）



ニッポンバラタナゴの新生息池を創出するための本池の環境整備には、NTT西日本奈良営業所が生物多様性保全活動の一環として協力をいただいています。当日も、社員と子供達を含むその家族が作業に参加します（人数未定）。

【ニッポンバラタナゴについて】

大阪府、香川県と九州中北部のみに分布するとされていた日本固有亜種。全長は最大で約5 cm 近くになり、約1年で成熟する。寿命は約2年。かつては、琵琶湖淀川以西の本州ならびに四国の瀬戸内平野と熊本平野、筑紫平野



を中心とした九州中北部に分布していた。しかし、近縁外来亜種タイリクバラタナゴの侵入や河川開発、水質悪化といった環境悪化により、地域によってほぼ全滅ないし分布は確実に縮小しつつある。具体的な個体数は不明。

（環境省ホームページから抜粋・要約）。奈良県では、奈良県版レッドリストの絶滅寸前種に選定され、奈良県希少野生動植物の保護に関する条例で特定希少野生動植物に指定されています。

- ① 日時 平成24年12月15日（土）10:00～12:00 <雨天決行>
- ② 場所 近畿大学奈良キャンパス（〒631-8505 奈良市中町3327-204）
希少魚ビオトープ
- ③ 対象 水圏生態学研究室、NTT西日本奈良営業所社員とその家族
- ④ 責任者 近畿大学農学部 准教授 北川 忠生

取材を希望される場合、下記まで事前連絡の上、当日9:30に近畿大学農学部の正面玄関に集合して下さい。担当者が誘導します。

水抜き作業、魚の採りあげは、12月14日の午後から実施しています。合わせてご取材下さい。

連絡先 北川

e-mail: tkitagaw@nara.kindai.ac.jp

TEL: 0742-43-6372（北川直通）

FAX: 0742-43-1593